

## 東シナ海をめぐる国際関係

佐藤考一（桜美林大学）

### 1. はじめに

尖閣列島とは（写真：省略）：5島、3岩礁

石油・天然ガス資源（別図参照）：1969年国連探査（台湾島の数倍の堆積層）、1994年の経産省試算（日本側海域で日本の年間消費量の2倍程度）、中国側が確認した埋蔵量（日本の年間消費量の10%程度）…採掘して採算が合うか？

水産資源：2004年の統計で、東シナ海と黄海での漁獲量は約920万トン

### 2. 東シナ海紛争の歴史的経緯

#### 歴史的経緯Ⅰ：尖閣列島の先占をめぐる問題

1884 古賀辰四郎、初めて尖閣列島に上陸

1893 清朝西太后の書状（真贋論争…現在は偽物と判明）

1895.1.14 日本政府、尖閣列島の領土編入決定、日清戦争の講和協議は3.20開始

1920 民国長崎領事の表彰状

#### 尖閣列島は台湾の付属島嶼か？

1922 中国共産党第2回党大会、中国の統一を呼びかけるも台湾に言及せず

1936 毛沢東発言「日本の敗北後、台湾は中国に合流するのではなく独立すべし」

1953.1.8.『人民日報』、尖閣列島を琉球列島の一部と報道

#### 歴史的経緯Ⅱ：石油資源・漁業資源と台湾をめぐる問題

1950-60 日韓漁船の中国沿岸での乱獲問題

1968-69 国連の海底資源探査、海底資源を過大評価か

1976~78 200海里漁業専管水域

1978.4 尖閣列島武装漁船事件

1995-96 第3次台湾海峡危機

1996.9 香港の民間団体の指導者溺死

1996.10 香港・台湾の民間団体6名、魚釣島に上陸

2002.9.24 李登輝元台湾総統「尖閣は日本のもの、台湾漁民の漁業権の考慮希望」

2004.3 中国民間保釣連合会、魚釣島に上陸、尖閣神社破壊

2005.2 海上保安庁、尖閣列島の民間団体建設の灯台を国有化

2008.12 尖閣列島周辺海域に中国の海洋調査船

2010.9.8 久場島周辺海域で中国漁船が海保巡視船に衝突→東シナ海ガス田共同開発交渉中断

2011.5.20 温家宝総理の東日本大震災被災地訪問直後に、2010.9.8の漁船事件の船長が、香港紙に「海保職員が暴行した」と証言

### 3. 中国の海軍戦略とその実力

劉華清の海軍戦略：1986年1月、近海防御提唱、第1列島線、第2列島線（別図省略）

2004年「漢」級原潜の領海侵犯事件

日米との比較：ガスタービン・エンジンの採用率、艦艇数と乗員数、洋上給油艦、ブルーウォーター・ネービーとしては初期段階、艦艇のモデルチェンジ頻繁、空母機動部隊当分無理、ワリヤークはカタパルト無し？

#### 4. 今後の展望と日本の課題

##### 今後の展望

有事シナリオ：①尖閣単独（海上民兵：可能性は小さい）、②艦載ヘリなどの挑発から偶発的衝突へ、③侵攻作戦：過去に検討されたのは台湾絡み、空母はまだ無理

- ・潜水艦戦
- ・島嶼奪取

多様な中国の海上保安組織：海軍、公安、交通運輸部、国土資源部、農業部、海関等  
アメリカの対応：Bader 発言、中間線、尖閣領有をアメリカはどこまで支持？

##### 日本の課題（政策提言）

多頭の竜、中国とどう付き合うか：硬軟双方のアプローチを用意し、柔軟な対応を

- ・安全保障政策対話：日米中首脳会議、東アジア首脳会議（EAS）の利用や新たな ASEAN+3 の設立、日米中及び日中海上安全委員会の設立、日中石油天然ガス共同資源開発、共同漁業水域設定（日中）、水産資源増殖協力
- ・制服組の国際会議参加
- ・海の現場から官邸までの緊急事態訓練
- ・日米同盟への積極的貢献と日本の防衛体制の見直し：非伝統的安全保障問題の利用から、集団的自衛権、武器輸出3原則の見直しへ、日米豪印による東シナ海・南シナ海での演習、海上自衛隊と海上保安庁の連携の強化、巡視船の抗堪性向上
- ・尖閣列島・東シナ海紛争における日本の立場の広報の強化
- ・国内海洋法令の整備：海洋基本法、貨物検査法、接続水域以降の海域の問題
- ・実効支配下の行政措置の強化：気象観測員・灯台守、南シナ海紛争の当事者たちの主張の研究・応用
- ・日米中首脳会議、EAS の利用や新たな ASEAN+3 の設立…東アジア将来構想対話（East Asia Future Vision Dialogue）の創設
- ・経済協力：ODA（海洋汚染防止）

##### [引用文献]

Harry Harding, "The Concept of Greater China", China Quarterly, December 1993,

pp. 660-686.

Peter Dutton, "Carving up the East China Sea", *Naval War College Review*, 2007, Vol. 60, No. 2, pp. 49-72.

劉華清『劉華清回憶錄』解放軍出版社、2004年。

邵永靈『海洋戦国策』石油工業出版社、2010年。

平松茂雄『中国の海洋戦略』勁草書房、1993年。

石井彰・藤和彦『世界を動かす石油戦略』ちくま新書、2003年。

井上清『尖閣列島』第三書房、1996年。

海人社『中国／台湾海軍ハンドブック』、海人社、2003年。

神原達『中国の石油と天然ガス』アジア経済研究所、2002年。

緑間栄『尖閣列島』ひるぎ社、1998年。

陸易「中国のコースト・ガード組織はどうなっているのか」『世界の艦船』2011年9月号、90-95頁（勉強会は7月23日に実施されたが、その後、ホームページ公開前に本稿が出版され、研究会での筆者の指摘と同じ記述があったので掲載する）。

杉本信行『大地の咆哮』PHP、二〇〇六年。

八木直人「エアシーバトルの背景」『海幹校戦略研究』創刊号、2011年5月、4-22頁。

佐藤考一「中国と辺境：海洋国境」『境界研究』No.1、2010年、19-43頁。

佐藤考一「南シナ海紛争と中国」『海外事情』2011年4月号、39-58頁。

『朝雲新聞』各号。

『軍事研究』各号。

『世界の海軍』各号、海人社。

『世界の艦船』各号、海人社。

政府広報（外務省、経済産業省、防衛省、農林水産省、海上保安庁の、ホームページ及び提供資料）

日系各紙（特に、『朝日新聞』、『産経新聞』、『読売新聞』）

以上